

アメリカ制度派経済学の研究

経済・塚本隆夫 教授

「アメリカ制度派経済学」を研究している。この「制度派」の経済学は「制度」を重視する経済学である。ウェブレンは、「制度」を「支配的な思考習慣」ととらえた。つまり何気なく、展覧されていった。20世紀前半にかけてアメリカで提唱された。この時代のアメリカは、一握りの大企業の動向が、一國全体の経済を左右するようになり始めたころでもある。このような経済体制がどのようにして生まれたのか。そしてこの体制はどこへ行くかという問題がある。これこそ制



小人数のゼミで学生を指導する

人々の行動を決定する重要な要因となるというのである。ウェブレンの経済学は、コモンズ、ミッチェルらによって継承され、展開されていった。科学技術の進展で変化

制度の役割を重視

ヴェブレンからミッチェルへの継承と展開

経済行動を文化として把握

一方、制度派経済学者は「制度」が人々の行動を左右すると考える。「制度」は人々の行動を説明できないと考える。人々がなせようとする「モノ」を求め、購入するのは「制度」抜きには解明できない。人々が何を幸福と思ひ、どうなれば満足するか、どのような制度が存在しているかによって、その答えが変わる。それゆえに制度派経済学者が描く世界は、連続的な変化の過程にさらされている。科学技術の進歩により、経済社会状況が大きく変化する。時と場合により、人々の価値観も変化する。例えば現在の社会で「石油」が大きな価値を持つのは、石油を利用できる「科学技術」が登場したためである。石油を利用する方法は、石油を利用する文化に内在する二面性、無駄を嫌う「製作本能」を持っている。この本能が、効率性に基づいて人間を評価するように、人々の間で競争が起り、上下の区別や「産業」が、金銭的利得



「経済学史」の授業を行う塚本教授

塚本 隆夫(つかも たかお) 昭和49年 経済学部経済学科卒。シコカ、カナダ・ビラ55年大学院経済学研究 トリア大に留学。経済科博士後期 課程単位取得 退学。同年経済学部 専任講師。61年同助教 会思想史学会、経済学 授。平成12年同教授。教育学会などに所属。15年大学院経済学研究 新潟県出身。55歳。

現役作家が教える文芸創作

芸術・佐藤洋二郎 教授

林真理子や吉本ばななを輩出した日芸文芸学科で、一応新人賞を取った作家、評論家が出ていないのはさしに(日芸)来たの。林真理子や吉本ばななを輩出した日芸文芸学科で、一応新人賞を取った作家、評論家が出ていないのはさしに(日芸)来たの。



「日大の文芸はいい学科」と佐藤教授

財産を食いつぶすの」とよく言います。才能ある学生は多いし、いい学科なんですけどねえ。本学で教えるようになって9年が経ち、今年度から教授になった。磨けば光る才能を目の前にして、歯がゆくて仕方ない。学生への注文は続く。

読む、見る、書くは基本。佐藤作品を貫く諦念感。はつくるであり、傷であらう。書き続けている。佐藤作品を貫く諦念感。はつくるであり、傷であらう。書き続けている。



研究室の佐藤教授。本棚には神社・仏教の本がズラリ

「神社」を歩く。大学の先生は結構忙しい。授業を受けること以外、行事にも必ず顔をだす。授業を受けている学生が相談に来ることから付属高校の文芸コンクール(2月13日に表彰)である。

「入学時に作家になりたて、4年生になるまで、文章には技術がある。文章とは量であり、量は技術である。文章は加工品であり、料理と同じように煮たり、焼いたり、代作家論を説いている。年、「夏至祭」で野間文芸

「小説部門の選考で残している。歴史は言葉が作るが、神社は言葉が持っている。言葉がなす作業ではないか」と思い、孤独や哀しみをテーマにした小説を発表し続けている。

佐藤洋二郎(さと う・ようじろう) 昭和49年中央大学経済学部卒。「夏至祭」で野間文芸新人賞、「岬の嶺」で芸術選奨文部大臣賞、「イギリス山」で木山捷平文学賞、三田文学新人賞、「猫の喪」で芥川賞候補に選ばれる。58歳。

プロフィール

4月から教授。日本文芸協会理事、日本近代文芸館理事、舟橋聖一文学館理事、三田文学新人賞選考委員など。